



2024年3月期 第1四半期決算短信(日本基準)(連結)

2023年8月10日

上場会社名 愛眼株式会社
コード番号 9854 URL <https://www.aigan.co.jp>
代表者 (役職名) 代表取締役社長
問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部長
四半期報告書提出予定日 2023年8月10日
配当支払開始予定日
四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東
TEL 06-6772-3383

(百万円未満切捨て)

1. 2024年3月期第1四半期の連結業績(2023年4月1日～2023年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期第1四半期	3,614	3.9	128		115		135	
2023年3月期第1四半期	3,479	10.3	142		120		143	

(注) 包括利益 2024年3月期第1四半期 88百万円 (%) 2023年3月期第1四半期 148百万円 (%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年3月期第1四半期	6.98	
2023年3月期第1四半期	7.42	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年3月期第1四半期	14,006	12,056	86.1
2023年3月期	13,991	12,144	86.8

(参考) 自己資本 2024年3月期第1四半期 12,056百万円 2023年3月期 12,144百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年3月期		0.00		0.00	0.00
2024年3月期					
2024年3月期(予想)		0.00		0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2024年3月期の連結業績予想(2023年4月1日～2024年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	8,021	11.8	116		134		73		3.81
通期	15,786	11.2	225		251		129		6.67

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2024年3月期1Q	21,076,154 株	2023年3月期	21,076,154 株
期末自己株式数	2024年3月期1Q	1,668,600 株	2023年3月期	1,668,590 株
期中平均株式数(四半期累計)	2024年3月期1Q	19,407,557 株	2023年3月期1Q	19,407,666 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症による行動制限が撤廃され、感染症法上の分類が2類相当から季節性インフルエンザと同じ5類感染症へ変更されたことに伴い、人流が回復し、個人消費やインバウンド需要を中心に経済活動は正常化に向かいました。一方、ロシア・ウクライナ情勢の長期化、エネルギー・原材料高、円安を背景とした諸物価の上昇が、消費者マインドを低下させ、消費行動に影響を与える懸念があるなど、景気の先行きは依然として不透明で、厳しい経営環境にあります。

このような状況のもと、当社グループは、「お客様の暮らしを、より快適に、より豊かにする企業となることを目指し、安心の技術、納得の商品、気持ちに寄り添うサービスを提供します。」を経営方針として掲げ、「目と耳の健康を守る」ことを社会的な使命と責任と捉え、顧客体験価値の最大化を追求するとともに、アフターコロナの環境下での事業展開を見据えた取り組みを進めております。また、組織及び人材面では、ニューノーマルな生活様式の浸透に応じた業務の効率化並びに働き方改革や女性活躍推進などに取り組んでおります。

当第1四半期連結累計期間の経営成績は、新型コロナウイルス感染症による行動制限の撤廃や5類感染症への変更に伴い人流が戻り、売上高は3,614百万円（前年同四半期比3.9%増）と前年同四半期比では増収となったものの、大型商業施設内の店舗を中心に客足の回復がまだ鈍く、コロナ禍以前の売上水準に完全には戻っておりません。また、売上総利益率は、商品仕入コストの上昇、セール等の販売戦略や品目別売上構成比の変化などの影響により2.3ポイント減少しました。経費面では、広告宣伝費、光熱費等の運営コストの上昇があったものの、経費コントロールの徹底に努めた結果、販売費及び一般管理費は2,584百万円（前年同四半期比0.1%減）となり、売上高に対する販管費の割合は減少しました。

この結果、営業損失は128百万円（前年同四半期は営業損失142百万円）、経常損失は115百万円（前年同四半期は経常損失120百万円）、親会社株主に帰属する四半期純損失は135百万円（前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純損失143百万円）となりました。

当社グループにおける報告セグメントごとの状況は次のとおりです。

[眼鏡小売事業]

当社グループの中核事業である国内眼鏡小売事業につきましては、眼鏡専門店として長年培ってきた快適で安心な視力・聴力補正技術、高い専門性を要する商品提案力と接客・サービス力の全てが結集した「愛眼ブランド」の強化に取り組んでおります。

販売促進面につきましては、お客様のニーズに的確に対応し、お客様視点を第一とする商品開発に注力し、素材・機能面において高品質でお客様満足度の高い商品の品揃えの充実を図ってまいりました。同時に、顧客体験を軸としたお客様に選ばれる「愛眼ブランド」の競争優位性を確保するため、ラジオCM、新聞折り込みチラシやDM、雑誌や動画、WEB広告やSNSなど幅広いメディアを活用した複合的な情報発信の強化や店舗特性に合わせたマーケティング施策の強化を通じて、「愛眼ブランド」の認知度向上に努めてまいりました。店舗におきましては、タブレット端末の活用などDX推進により店舗オペレーションの効率性を高め、お客様に対する接客・サービスをさらに充実させております。また、アフターコロナへの対応として、通販事業を見直し、お客様の利便性や新しい生活様式に合致した形態によって、実店舗との連携を深めたネット通販事業の強化に取り組んでおります。

人材教育面につきましては、従来からの視力・聴力補正技術、商品提案、接客・サービスに関する従業員向け教育指導に加えて、取得済みの「認定眼鏡士」資格から、昨年新設された国家技能検定制度の「眼鏡作製技能士」への切り替えを順次行っております。

売上高につきましては、社会経済活動の制限撤廃に伴い客足が戻り、感染状況に左右されないアフターコロナ期への移行が進む中、全体では前年同四半期比で増収となりました。主力品目のメガネは、前年同四半期比で若干の増収を維持し堅調に推移しつつも、コロナ禍以前の売上水準に完全には戻っておりません。準主力品目の補聴器及びサングラスは、行動制限が撤廃され人流が回復したことにより、前年同四半期比では大幅な増収となっております。

店舗につきましては、1店舗を閉店し、既存店の活性化を目的とした改装を4店舗で実施しました。

この結果、眼鏡小売事業における売上高は3,508百万円（前年同四半期比4.7%増）、セグメント損失は100百万円（前年同四半期はセグメント損失121百万円）となりました。

[眼鏡卸売事業]

眼鏡卸売事業につきましては、得意先に対する新商品の投入や販売支援に努めるとともに、新規取引先の開拓に取り組んでおります。

この結果、売上高は103百万円（前年同四半期比0.6%増）となり、セグメント損失は5百万円（前年同四半期はセグメント損失1百万円）となりました。

[海外眼鏡販売事業]

当社連結子会社である北京愛眼眼鏡有限公司は、2022年11月28日開催の取締役会の決議に基づき、現在、現地の法令等に従い、解散及び清算へ向けた諸手続きを進めております。なお、最終の清算終了日は、未定であります。

この結果、売上高は2百万円（前年同四半期は売上高26百万円）、セグメント損失は17百万円（前年同四半期はセグメント損失9百万円）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末の資産合計は14,006百万円（前連結会計年度末比0.1%増）となりました。流動資産は、商品及び製品の増加、現金及び預金の減少等により7,377百万円（前連結会計年度末比0.6%減）となり、固定資産は、投資有価証券の増加、建物及び構築物の増加、敷金及び保証金の減少等により6,629百万円（前連結会計年度末比1.0%増）となりました。また、負債合計は支払手形及び買掛金の増加、賞与引当金の増加、未払法人税等の減少等により、1,950百万円（前連結会計年度末比5.6%増）となり、純資産合計は12,056百万円（前連結会計年度末比0.7%減）となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想については、2023年5月11日の「2023年3月期 決算短信」で公表いたしました第2四半期連結累計期間及び通期の連結業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,622	4,299
受取手形	8	8
売掛金	739	707
商品及び製品	1,781	2,051
原材料及び貯蔵品	17	17
その他	256	293
貸倒引当金	△1	△1
流動資産合計	7,424	7,377
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	1,001	1,022
土地	1,799	1,799
その他（純額）	173	169
有形固定資産合計	2,974	2,991
無形固定資産		
ソフトウェア	25	23
その他	4	—
無形固定資産合計	29	23
投資その他の資産		
投資有価証券	522	588
敷金及び保証金	2,688	2,676
その他	353	349
投資その他の資産合計	3,563	3,614
固定資産合計	6,567	6,629
資産合計	13,991	14,006

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	366	488
未払法人税等	155	53
契約負債	290	311
賞与引当金	—	64
その他	507	558
流動負債合計	1,318	1,476
固定負債		
繰延税金負債	51	67
再評価に係る繰延税金負債	6	6
資産除去債務	319	318
リース債務	3	3
その他	147	76
固定負債合計	528	473
負債合計	1,846	1,950
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,478	5,478
資本剰余金	6,962	6,962
利益剰余金	3,072	2,937
自己株式	△1,051	△1,051
株主資本合計	14,462	14,326
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	121	166
土地再評価差額金	△2,471	△2,471
為替換算調整勘定	32	34
その他の包括利益累計額合計	△2,317	△2,269
純資産合計	12,144	12,056
負債純資産合計	13,991	14,006

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)
売上高	3,479	3,614
売上原価	1,034	1,158
売上総利益	2,445	2,455
販売費及び一般管理費	2,587	2,584
営業損失(△)	△142	△128
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	5	6
受取家賃	10	12
システム導入負担金収入	9	—
その他	9	6
営業外収益合計	36	26
営業外費用		
固定資産除却損	5	2
賃貸費用	8	7
その他	0	2
営業外費用合計	13	13
経常損失(△)	△120	△115
税金等調整前四半期純損失(△)	△120	△115
法人税、住民税及び事業税	24	22
法人税等調整額	△0	△2
法人税等合計	23	20
四半期純損失(△)	△143	△135
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	—
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△143	△135

(四半期連結包括利益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)
四半期純損失(△)	△143	△135
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△7	45
為替換算調整勘定	2	2
その他の包括利益合計	△4	47
四半期包括利益	△148	△88
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△148	△88
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	眼鏡小売	眼鏡卸売	海外眼鏡販売			
売上高						
顧客との契約から生じる収益	3,349	102	26	3,479	—	3,479
外部顧客への売上高	3,349	102	26	3,479	—	3,479
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	15	—	15	△15	—
計	3,349	118	26	3,495	△15	3,479
セグメント損失(△)	△121	△1	△9	△132	△9	△142

(注) 1. 調整額は以下のとおりであります。

セグメント損失(△)の調整額は、セグメント間取引消去2百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△11百万円であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない連結財務諸表提出会社の費用です。

2. セグメント損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

II 当第1四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	眼鏡小売	眼鏡卸売	海外眼鏡販売 (注) 3			
売上高						
顧客との契約から生じる収益	3,508	103	2	3,614	—	3,614
外部顧客への売上高	3,508	103	2	3,614	—	3,614
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	17	—	17	△17	—
計	3,508	120	2	3,631	△17	3,614
セグメント損失(△)	△100	△5	△17	△124	△4	△128

(注) 1. 調整額は以下のとおりであります。

セグメント損失(△)の調整額は、セグメント間取引消去2百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△7百万円であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない連結財務諸表提出会社の費用です。

2. セグメント損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

3. なお、「海外眼鏡販売」セグメントである北京愛眼眼鏡有限公司は、2022年11月28日開催の当社取締役会の決議に基づき、現在解散及び清算へ向けた諸手続中であります。